

## 「袋は一枚でよろしいですか？」

札幌啓北商業高等学校 1年 川本 友貴

「知っているけど、していない」

こんなナレーションが繰り返されるテレビCMをみなさんはご存じですか？ 画面では、レジ袋を手に提げたサラリーマン、台所で水を出しっ放しにするお母さん、まだ明るいのに部屋の電気をつけて遊ぶ子どもが映し出されています。……これは「身近な環境対策」を促すCMですが、私はこれを観た時「ドキッ！」としました。というのも、私自身が毎日たくさんのレジ袋を配っていたからです。

私は、レジ袋が環境破壊につながっているなんて全く知りませんでした。それどころか、母と買い物に行った時にレジ袋が小さかったり足りなかったりすると、「もう一枚くれてもいいのにねえ」なんて話していたのです。

その私が、去年の夏から進学のための資金を貯めるためにスーパーでレジのアルバイトを始めました。そして最初の研修で言われたのが、「レジ袋が必要かどうか判断するのはあくまでお客様。それを尋ねるのは失礼に当たる」ということでした。あの頃の私は、それが当然のサービスだと思っていました。私の環境意識はそれほど遅れていたのです。

あのCMがきっかけで、私はレジ袋について調べてみました。そしてわかったことは、わたしたち日本人は年間で一人あたり約300枚以上のレジ袋を消費していること。そのために膨大な量の石油が使われていること。その量は1年分で、なんと日本の輸入原油1日分なんだとか。そしてその石油が大量のCO<sub>2</sub>を排出して地球温暖化を進めている、ということ。あの薄っぺらなレジ袋が地球温暖化と密接につながっていたなんて……。まさに、「レジ袋も積もれば山となる」だったのです。

またその一方で、レジ袋に関する様々な取り組みが全国で行われていることも知りました。その中心となる流れは「有料化」です。有料化することによってレジ袋の使用量を減らしていこう、というわけです。しかし実際のところ企業側の姿勢は慎重で、「お客様が離れていってしまうのではないか」との心配もあり、なかなか実施に踏み切れないようです。

各地で実現の方向に進むレジ袋有料化。でも、実はその裏にはちょっとしたワケがあります。それは、政府が企業側に削減を義務づけた「改正容器リサイクル法」の存在です。この法律が去年の春に施行されたという事実、つまり企業努力の背景には「法による規制」もあったのです。

本当はお金や法律が絡むからではなく、ひとりひとりが環境のことを真剣に考え、利害を超えた意志で行動できたらいいのに、と私は思います。

そうした意味で、私は三重大大学の環境学生委員会の取り組みは素敵だなあと思いました。これは学生たちが環境保護のため自ら立ち上がり、やがて学校側や地域を巻き込んでその輪を大きく広げていった活動です。その成果として、法による規制ではない「大学生協でのレジ袋有料化」につながっていきました。同じ有料化であっても、こちらはひと味違うのです。

昔、南米のアンデス地方に「クリキンディ」という名前のハチドリがいました。あるとき森が燃え、森の生きものたちがわれ先にと逃げる中、クリキンディだけは行ったり来たり。よく見ると、口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上にポトリ、と落としています。動物たちがそれを見て「そんなことしていったい何になるんだ」と笑いました。でもクリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」と。

これは、『ハチドリのひとしずく』というお話です。私もこのクリキンディのように、今の私に「できること」をしていきたいと思うのです。

他のお店の中には、「袋はお使いになりますか？」とお客様に尋ねているところも実際にあります。ですが私のアルバイト先では先ほどもお話したとおり、お客様にそのように接してはいけないことになっています。それでも、今の私にもできることはあるはず。そう、たとえばお客様にレジ袋を二枚渡すところを思い切ってこう言います、

「袋は一枚でよろしいですか？」

……それが、私のまず1ポトリ！

テレビCMはこう続きます。「『知っている』を『している』へ。明日のために、いま始めよう」と。私のひとしずくはホントにちっちゃなものかもしれませんが。でも、私はそこから始めていこう。きっとそれが、何かのきっかけになるはずだから！